



宮坂なお県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

保健所機能の強化要望

新型コロナ、第6波に備え

通常業務の効率化提言

9月定例県議会一般質問



県の答弁に対し、要望を行う宮坂奈緒県議

だれもが住み良いと思うことができる浦安市の実現を目指して、全力投球をしている宮坂奈緒県議は、9月定例県議会に登壇し、新型コロナウイルス感染症への対応や生活道路の安全対策などについて、熊谷俊人知事に質問しました。新型コロナウイルス感染症対策で保健所職員は不眠不休の対応を続けていましたが、流行の第6波に備え、宮坂議員は「通常の業務の見直しで、職員の負担を減らすべき」として、県担当者とその取り組みを聞き取りました。宮坂議員の質問と熊谷知事ら県執行部の答弁を紹介します。

宮坂議員 埼玉県越谷市保健所の職員が、保健所は過労死寸前であると、コロナでの長期労働の改善を訴えたと9月18日の記事で拝見した。千葉県も例外ではない状況にあるのではないかと、私が視察に訪れた市川保健所では、感染ピーク時には周りの声で自分の声が聞こえず、担当者を探す怒鳴り声、鳴りやまない電話、気が

が狂いそうであったという。感染拡大が続いている中で、通常業務を行っているが、コロナ対応を行う保健所運営はひつ迫状態にあり、体制を強化し県民の安心を担保するためにも、業務の縮小が出来るものはいない、効率化に向けて取り組むべき。そこで、保健所の新型コロナ対策以外の業務見直しや効率化にどの

ように取り組んでいるのか。健康福祉部長 県では、昨年来、地域の感染状況等に応じて、新型コロナウイルスの感染者対応を最優先とした体制を構築することが出来るよう、感染症対策以外の保健所業務の中止・縮小等を行ってまいりました。具体的には、医療機関等への立入検査について書面も含めた柔軟な方法による実

重要な職員の心の健康維持

宮坂議員 北大医学部教授らのアンケート調査によると、保健所職員の約7割が不眠症状、約6割が心理的苦痛を感じているなど、想定した以上に、深刻な現場の様子だったという。そこで、保健所職員のメンタルヘルスケアを徹底するよう改めて周知したところであり、今後とも保健所職員のメンタルヘルスの維持に取り組んでまいります。

実施し、その結果、高ストレスと判定された職員のうち、希望する職員には医師による面接指導を実施するほか、専門家によるメンタルヘルス相談窓口の活用について周知を図っているところです。

さらに、保健所業務の増大に伴い、職員のメンタルヘルスの維持により一層留意する必要があることから、各保健所に対し、上司からの声掛けなどの所属内でのフォローや相談窓口の活用など、メンタルヘルスケアを徹底するよう改めて周知したところであり、今後とも保健所職員のメンタルヘルスの維持に取り組んでまいります。

的に導入するなど、業務の効率化を進めているところ。宮坂議員 知事は、全ての保健所に足を運び、現場の意見に耳を傾けていただき、まずは保健所職員の現場環境を整え、コロナ対策に迅速に当たれる保健所機能の強化を要望する。

宮坂なおプロフィール

経歴

- 昭和53年 東京都中央区に生まれる
- 平成11年 川村学園短期大学生活情報学部卒業
- 平成11年 森田健作衆議院議員秘書
- 平成15年 財務省主計局非常勤職員
- 平成17年 東京国税局非常勤職員
- 平成19年 浦安市議会議員初当選(3期12年)
- 平成27年 自由民主党浦安市支部女性局長
- 平成29年 自由民主党千葉県支部連合会女性局長
- 平成31年 千葉県議会議員当選

現職

- 県議会 文教常任委員会委員

県政や浦安市のまちづくりについて、気軽にご相談ください

宮坂なお 事務所 TEL 047-355-7300 FAX 047-355-7303

〒279-0042 浦安市東野1-23-12 バレドール・イースト116

コロナ禍

迅速な協力金支給を

時短飲食店の『生命線』

宮坂議員 県はこれまで、新型コロナウイルス感染症拡大防止を図るため、飲食店に対して営業時間の短縮等を要請し、協力していただいていた飲食店に協力を支給してきた。

請を守り、感染拡大防止対策を実施しているすべての飲食店に、速やかに協力金を支給していく必要がある。そこが、飲食店への感染拡大防止対策協

力を迅速に支給するため、どのような取り組みを行っているのか。知事 協力金の支給については、これまでも、審査体制を拡充するほか、提出書類の一部を省略できるようにするなど、迅速に支給するための改善を行ってまいりました。



議場の自席で発言を求める宮坂議員

さらに、7月12日から8月31日までの要請分からは、オンライン申請のシステムを改修し、要請期間終了の翌日から、直ちに受付を開始するとともに、審査人員も大幅に増員し、支給までの期間の短縮化を図っている。

飲食店に要請に応じていただくと、速やかな支給が前提とされており、今後とも、委託事業者とともに取り組んでまいりたい。

要望 宮坂議員 協力金申請の際に相談窓口となる委託業者の状況として、内部の引継ぎ、報告等のマニュアル化、統一の徹底を今一度お願いする。

また、指令系統は、申請に携わる全ての者に行き渡るようにしていただきたい。公平性の担保をしっかりとしたい。引き続き迅速に支給されるよう要望する。

パルスオキシメーター
自宅療養者に
原則「1人1台」

宮坂議員 パルスオキシメーターの貸出基準はどのようなものか。

保健医療担当部長 パルスオキシメーターについては、自宅療養者への貸出しを開始した昨年12月当初は、高齢者等を優先する基準を設けていたが、デルタ株への置き換わりが進むにつれ、若い世代でも重症化例が増加してきたことから、本年7月に、原則全ての自宅療養者を対象とするよう、貸出基準を変更したところである。

障害を持っていても
利用しやすい公園を

宮坂議員 障害があっても利用しやすい都市公園「インクルーシブ公園」の整備に向けて、県はどのようなことを考えているのか。

都市整備局長 障害の有無にかかわらず、あらゆる子供たちが一緒に遊べる遊具広場などを配置したインクルーシブな公園の整備は、互いの違いを理解しあい、支え合いながら遊ぶ場ともなることから、大変重要であると認識しております。

県はこれまで、障害のある人などが利用しやすいよう、段差の解消や多目的トイレの設置など、公園施設について新設や改築の機会を捉えてバリアフリー化を進めてきました。

今後は、誰もが遊べる公園の整備について、まずは市町村と連携し、東京都などの先進事例を調査するとともに、安全で楽しく利用いただける公園とするため、管理・運営上の課題やノウハウなどについて研究してまいります。

要望 宮坂議員 ニーズを調査した上で千歳

県の方向性を決め、県内市町村にもその考え方を周知いたして子供たちが安全に楽しむことができる遊び場の整備を進めていただきたい。

また、財源確保の一つとして、ふるさと納税制度や、ガバメントクラウドファンディングの活用も検討いただき、障害の有無にかかわらず、全ての子どもたちがともに遊び、学ぶ機会を積極的に提供できる共生社会を目指していただきたい。

宮坂議員 医療的ケア児を含め、乗車希望に沿ったスクールバスの利用に向けて、県はどのように取り組んでいるのか。

教育長 県教育委員会では、各学校に毎年度乗車希望を調査し、必要に応じてバスを増車してきました。また、各学校においては、利用する児童生徒の居住地などを考慮しながら、毎年度、運行ルートの改善を図り、少しでも乗車時間を減らすことができるよう取り組んでいるところです。

スクールバス乗車中に医療的ケアが必要となる児童生徒については、安全面の検証や看護師の確保などの課題があることから、他の都道府県の実況を参考にしながら、研究を進めています。

ゾーン30プラス」道路に

宮坂議員 浦安市堀江5丁目地区においては、対象地区内の車の流れや車両の通行が危険と感ずる箇所の抽出や危険箇所が通学路に集中しているとのアンケート結果とともに、浦安市堀江5丁目自治会、浦安市立南小学校PTA、浦安市立南小学校および会の3者連名でゾーン30プラス整備について要望書を出している。そこで、浦安市堀江5丁目地区にゾーン30プラスを整備すべきと考えるかどうか。

交通安全へPTAなどが要望

要望 宮坂議員 現在、浦安市と浦安警察署において調整が図られているというところだが、より効果的に考える。浦安市、浦安市市議会のメンバー、地域住民の方とも連携しながら広範囲で安全を確保していきたいと考えているところ、引き続き整備に向けた調整を要望する。

浦安市堀江5丁目地区